

清真学園でSSH発表会

鹿嶋 生徒が探究活動報告



鹿嶋市宮中の清真学園高・中（飯山克則校長）は8日、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）春季

発表会を開いた。講堂で代表生徒が登壇し、大学教授や保護者らを前にアナフィラキシーショックについて学べる教材や3Dプリンターで制作したロボットについて報告した。

同校は先進的な理数教育を実施するSSHに指定され、本年度で18年目。中学3年と高校1、2年の全生徒が自身の関心に基づきテーマを決め、探究活動に取り組んでいる。

代表発表では、計8のグループ・個人が成果を報告した。木材などを使用し、

1年間の探究成果を発表する
清真学園の生徒たち（鹿嶋市宮中）

アナフィラキシーショックの仕組みについて小中学生に分かりやすく伝える教材を作った2年の方波見迅さん、小沢奏太郎さん、原目智央さんは「命に関わる反応なのに理解されていない」と取り組んだ動機を説明。学習者自身が教材を動かして学べるとして、「反応を視覚的に理解しやすい」と工夫点を紹介した。

このほか、2年の井上樹理さん、坪井紗矢さんは、教育教材として使われる小型ロケットの制作について発表。3Dプリンターを使用したところ手作りよりも滞空時間などが長くなったと説明し、「各パーツがより精密に作れるので、バランスが良くなったのではないかと考察した。

計216テーマの個別発表もあり、生徒らは「スポーツ総合」「日常に潜む数理の研究」などのゼミごとに分かれて1年間の成果を報告した。

（重富優希）